

## 令和2年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）

「認知症介護実践者等養成研修における受講の仕組みを含むカリキュラムのあり方に関する調査研究事業」

# 認知症介護実践研修等カリキュラムの見直しと受講しやすい環境づくり

### 目的

認知症ケア従事者がより当該研修を受講しやすい仕組みの検討を行うとともに、認知症施策推進大綱に位置付けられている意思決定支援、認知症の本人・家族視点の重視等、最近の認知症施策の動向を踏まえた研修カリキュラムの改訂について検討し必要な提言を行い、関係者に対してこれを普及するための資料を作成・周知し、認知症ケアの充実を図ることを目的として実施した。

### 概要

#### 主な事業内容

- 1 研究委員会を設置し、研修の質を担保しつつ受講しやすいカリキュラムの内容と受講方法等について、実態把握を踏まえ検討
- 2 都道府県・指定都市、研修実施機関、認知症介護指導者を対象に「カリキュラム改訂に対する意見・実態把握アンケート」を実施
- 3 カリキュラム改訂案等を周知するためのオンライン研修会を実施
- 4 事業は認知症介護研究・研修仙台センター及び大府センターの協力のもと、作業部会を設置し実施

#### 主な事業結果・成果

#### カリキュラム改訂に対する意見・実態把握アンケート調査

都道府県・指定都市調査（回収率 74.6%）

- 平成28年度以降の各研修の受講者数は、減少あるいは横ばい傾向にあるが、認知症への対応力向上のためには本研修が必要だと考えており、今後の養成について、増やしていきたいもしくは現状を維持していきたいと考えていることが明らかになった。

実施機関調査（回収率 39.6%）

- 実践者研修・実践リーダー研修は受講しにくく、その理由は人手不足の中で職場を離れる日数が多いためと考えていることが明らかになった。また、eラーニングの導入は実践者研修・実践リーダー研修の受講しやすさにつながると考えており、導入により期待する効果（複数回答）として、感染症の危険の軽減（83.0%）、職場を離れる時間が少なくて済む（77.4%）、遠隔地の人が受講しやすくなる（71.7%）等が挙げられた。

認知症介護指導者調査（回収率 44.0%）

- 研修日数の短縮について、実践者研修・実践リーダー研修の日数を短縮することは、受講しやすさにつながると考えていた。一方、指導者養成研修については、あまり受講しやすくないという回答がわずかに多く（26.4%）、受講しやすくなる（24.1%）、やや受講しやすくなる（23.4%）と続いた。講義・演習の日数は、実践者研修は3～4日間程度、実践リーダー研修は5～6日間程度、指導者養成研修は14日間程度が適切と考えていること等が明らかになった。

#### カリキュラム改訂案のポイント

実践者研修及び実践リーダー研修：日数を短縮することとし、科目ごとの時間数の短縮や科目の統合で対応

- 実践者研修・・・対象要件に、基礎研修又はそれと同等の研修を修了した者を追加。講義・演習を2ステップに分割し、受講しやすさの向上と併せて、学習内容の実践と振り返りの強化によるスキル向上を目指す案とした。
- 実践リーダー研修・・・領域別であった指導方法に関する科目を統合し、様々な場面で応用できる指導方法を学習する科目とした。また、職場実習で作成した指導計画を対象の介護職員等と必ず共有するようシラバスに位置付けた。
- 両研修共、オンラインの部分的導入についての留意点をシラバスに明記することとした。

指導者養成研修：集合研修の期間を3週間に短縮するとともに、令和3年度から同時双方向型のオンラインを導入

#### 研修会においてカリキュラム改訂案・シラバス修正案等を周知

- カリキュラム改訂案及びシラバス修正案等を記載した資料を作成・配付した上で、3回開催。参加者423名。説明動画を配信し、当日以外にも視聴できるようにした。

### 成果物

#### 研究事業報告書

都道府県・指定都市に送付するとともに、当センターウェブサイトにPDFを掲載



#### 研修シラバス

当センターウェブサイトにてPDFを掲載



#### 実践者研修



#### 実践リーダー研修



#### 指導者養成研修